〈実践報告〉

小学校における英語絵本の読み聞かせの研究

東　田　彰　子

1　はじめに

2011 年度に小学校外国語教育が必修化されてから 9 年が経過し、いよいよ本年度（2020 年度）より小学校 3 年生から英語活動として始まり、5 年生からは英語科として教育活動に組み込まれる。小学校の英語教育は、英語のスキル指導が主な目的ではない。今後児童たちが成長するうえで英語教育を受ける基礎つまり素地を養うことに重きを置いている。文部科学省の方針としては、日常生活の実態や一人ひとりの児童の様子を一番把握している「学級担任」が授業をすることを求めている。ところが「英語力に自信がない」「どのようにして実際に授業の中で指導してゆけばいいのか」など悩む小学校教員が多いのも実態である。

文部科学省（2016）「中学年を対象とした絵本の活用に関する基本的な考え方」によると「中学年からは―中略―言語や文化についての体験的理解や音声への慣れ親しみなどを発達段階に適した形でやしなうとともに、指導内容・方法や活用の設定、教材の工夫、他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めることが必要である。」としている。それに伴い、小学生の発達段階に適した「英語絵本」の選定や研究も始まっている。この背景からも小学校での英語絵本の読み聞かせは大切であり、小学校教員の関心は高まっていると考える。そこで小学校教員の資質向上のため「英語の絵本」を取り入れることを英語指導の柱にする方法について研究した。学級担任は普段の国語授業の中「読み聞かせ」をしている場合が多い。それぞれの先生方が独自の方法で児童たちを引き込み「絵本好き」の子どもに成長させている例も多くある。そんな先生方にとってはくり返し練習もできるし、英語に自信がなくても、適切な絵本があり、その本を英語で読むテクニックをマスターすれば日常の授業に役立てることができる。現在の教育現場ではまだまだ英語絵本の読み聞かせの手法や英語絵本の選定については情報が少ないのが現状である。「英語絵本の使い方や読み方」の研修会や、研究を進めている先生とのワークショップが実際に行われつつある。そこで教員自身の英語力・指導力を向上させるためにも、「絵本の読み聞かせ」の研究は有効であると考えた。小学校教員が英語絵本の読み聞かせをする際の一助となればと思い先行研究を行っておられる現職の先生の助けを借りてこの研究に取り組んだ。

2 研究の概要

（１）研究の目的

本研究の目的は以下の２点である。

①児童が英語に慣れ親しむ手段として、効果的な読み聞かせの方法を探ること。

②児童の学年、発達段階に応じた絵本を選定すること。

（２）研究の方法

①小学校英語教育における中・高学年に適した英語絵本に関する先行研究を検討し、「小学校３，４年生の英語絵本の選定条件（松本　2017)」などの基準をもとに読み聞かせ実践の準備をする。（紙面記載なし）

②研究協力校で絵本の読み聞かせを行い、効果的な手法や留意点を探る。

③ 3、4 年生の児童を対象にアンケート調査を行い、読み聞かせを実施した前後での児童の変容を調べ、児童の興味関心、発達段階に応じた絵本の選定に生かす。

④英語絵本の選定に役立てるよう、「英語の絵本活用リスト」を作成する。

（３）研究の内容

①研究実践の概要

研究実践期間は、当初は１学期間と計画した。しかし新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が出て、4、5 月は兵庫県西宮市の公立小学校は全面休校となった。6 月学校再開時に大変無理を言って、西宮市立津門小学校の近藤昭人教諭[(1)]に研究協力をお願いした。そのため新学期スタートの６月から７月にかけての実践となった。

前年度までは学級担任をされていた近藤教諭が本年度は英語専任として学校全体の「英語」の指導をされている。3 年生には「英語活動」の時間に３回、授業のスタート時に 10 分ほどの帯で読み聞かせをしていただいた。各読み聞かせの様子を動画で撮影し DVD 化していただいた。4 年生についても同様に帯の時間で４回、読み聞かせをしていただいた。児童対象のアンケー

〈資料 1〉

英語活動に関するアンケート

英語活動に関するアンケート（小学校３年生　事前アンケート）

（3 年生と 4 年生に同じアンケートを実施した。）

あてはまるものに○をつけましょう。

ア）くもん・学研など英語の習い事で勉強したことはありますか。

①はい　　②いいえ

イ）家族に英語の絵本を読んでもらったり、英語の絵本の読み聞かせ会などに参加したことがありますか。

①はい　　②いいえ

ウ）英語や外国語がすきですか。

①とてもすきだ　　②すきだ

③あまりすきでない　④まったくすきでない

エ）「英語の絵本の読み聞かせ」を聞きたいですか。

①とても聞きたい　　②聞きたい

③あまり聞きたくない　④まったく聞きたくない

ご協力ありがとうございました。

トは読み聞かせを始める前と終わった後で計2回実施した。なお3年生は4クラス123人、4年生は4クラス125人の調査である。

② 実践例

近藤教諭の経験に基づき、先生の読み方の工夫が児童の理解を助け、児童の反応を効果的に引き出せそうな絵本2冊を実践例として選んだ。3年生には初めての英語学習のスタートにふさわしく、繰り返して読むことで自然に「英語のあいさつ」を覚えてほしいとの願いから *Excuse me !* を選んだ。4年生については、*The Very Hungry Caterpillar* を選んだ。幼児のころから日本語の絵本で見たことがあり、曜日や色、果物の名前など盛りだくさんの内容が入っている。しかも仕掛け絵本としてページをめくる楽しさも満喫できる盛りだくさんな内容が良いと考えた。それぞれの学年の授業の様子を随時ビデオに撮ってもらい、後ほど見せていただいて授業の様子を確認した。

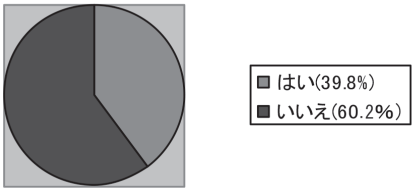
③ アンケートよりのまとめ

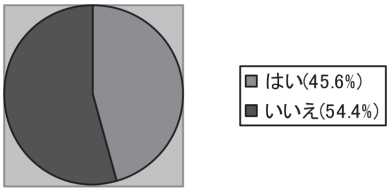
（1）事前アンケートより

3、4年生ともに、6月第1回目の読み聞かせ前に、実態把握と意識調査のためのアンケート〈**資料1**〉を実施した。

ア）の項目〈資料2〉「くもん・学研など英語の習い事で勉強したことはありますか。」と英語学習歴をたずねる質問項目に関しては、2学年を比べると3年生は「はい」が39.8%、4年生は45.6%と4年生のほうが5.8%多かった。どちらも義務教育下の英語学習は初めてであるが、中学校を意識した4年生のほうが英語に触れたことのある児童が習い事に関しては多かった。

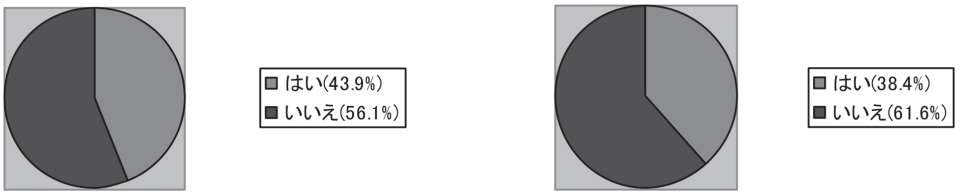
〈資料2〉　　**3年生**　　**4年生**





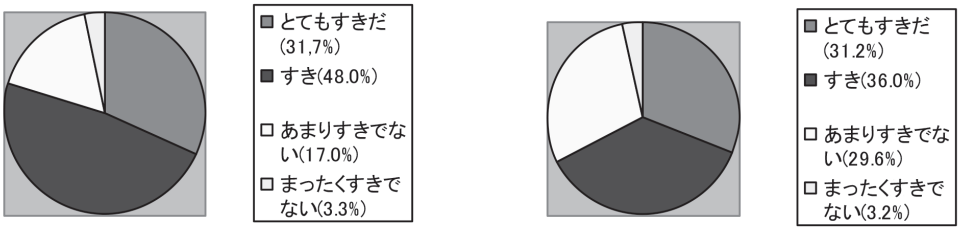
イ）の項目〈資料3〉「家族に英語の絵本を読んでもらったり、英語の絵本の読み聞かせ会などに参加したことがありますか。」と読み聞かせ経験を尋ねる質問項目に関しては、ほぼ変わらずであったが、両学年ともに英語の絵本を読んでもらったことのない児童の数が読んでもらったことのある児童の数を上回った。なお3年生の経験者が多かった理由は次のとおりである。昨年度学級担任をされていた近藤教諭のクラスでは、英語の絵本の読み聞かせを朝の活動や帯の時間帯で実施されていて、経験した児童が多くいたことによるものだと思われる。

〈資料 3〉　　3 年生　　4 年生



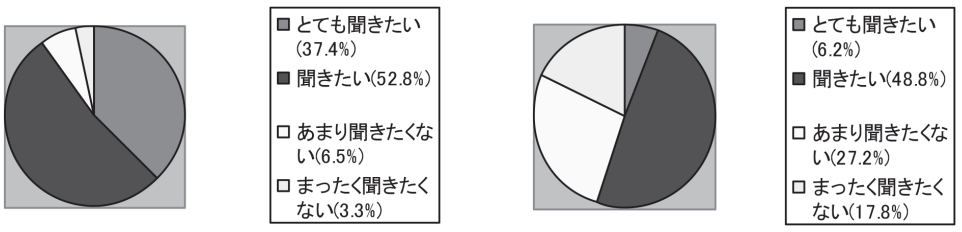
ウ）の項目〈資料 4〉「英語や外国語がすきですか。」と外国語への興味について尋ねたところ 3、4 年生ともに 70%～ 80%の児童が興味を持っていることが分かった。

〈資料 4〉　　3 年生　　4 年生



エ）の項目〈資料 5〉「絵本の読み聞かせを聞きたいですか。」と絵本への関心について尋ねたところ、「とても聞きたい」と「聞きたい」とを合わせると 3 年生が 90.2%と関心が高かった。4 年生については 55.0%とほぼ半数の生徒が関心を示した。

〈資料 5〉　　3 年生　　4 年生



（2）事後アンケートより

読み聞かせ実践後に行ったアンケートの結果である。〈資料 6〉

ア）の項目〈資料 7〉「英語の絵本の読み聞かせ」をこれからも聞きたいかという、英語の絵本への興味の経緯である。

3 年生では、こちらの思惑が当たり 3 回、読み進めるうちに児童から自発的にくり返しを行い大半の児童があいさつの言い方を覚えてしまった。その結果として、実践後には「と

ても聞きたい」児童の数が大幅に増え、入門期の読み聞かせとしては成功したと思われる。

一方4年生は一度日本語で接した絵本のほうが近づきやすい、内容的にはちょうどいいと予測したがそれに反した形となった。その結果は「あまり聞きたくない」と思った児童が増えたのに表れている。また感想の中に、英語がむずかしかったと感じた児童が多くいた。4年生ともなれば個人差がかなり開き、「英語が得意でよくわかる」児童と「苦手で何を言っているのかわからない」と感じる児童が顕著に二分化されていく時期であろう。どうせ英語を習っている人にだけわかるのだろうと不安な気持ちを抱き始める時期なのかもしれない。そこで読み聞かせのタイミングと回数を研究して無理強いのない形で、ゆっくりと絵本に親しむ機会を取ってあげることも成功の大きな要素となるのだろう。

イ）の項目〈資料8〉

「先生に英語の絵本を読んでもらいました。前より英語の絵本に興味が出ましたか。」の質問に対し、3年生では、「とてもすきになった」「すきになった」と肯定的に答えた児童の比率合計　93.7％と圧倒的に多かった。4年生では「とてもすきになった」と「あまりすきにならなかった」がほぼ同率となった。

その要因の一つとして、絵本の選定に難があったということがあげられる。事前の打ち合わせで、3年生は学習の始まりとして、挨拶や簡単な表現が詰まった仕掛け絵本が適切と考えた。それは見事に児童の実態にマッチした。くり返し読むたびに言える英語の表現が増えて、児童が読み聞

〈資料6〉

英語活動に関するアンケート（小学校4年生　事後アンケート）

このアンケートはみなさんの英語活動に関する意識を調査するものです。通知表とは関係ありませんので、正確に答えてください。

あてはまるものに○をつけましょう。

ア）英語の絵本の「読み聞かせ」をこれからも聞きたいですか。

①とても聞きたい　② 聞きたい

③あまり聞きたくない　④ まったく聞きたくない

イ）先生に英語の絵本を読んでもらいました。前より英語の絵本に興味が出ましたか。

①とても興味が出た　② 興味が出た

③あまり興味は出なかった　④まったく興味は出なかった

ウ）絵本の活動はどうでしたか。

①とても楽しかった　② 楽しかった

③あまり楽しくなかった　④ まったく楽しくなかった

エ）絵本の活動が「とても楽しかった」「楽しかった」を選んだ人に聞きます。

その理由は何ですか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

①おもしろい話だったから　②知っている話だったから

③英語担当の先生が読んでくれたから　④話が気に入ったから

⑤英語の音やリズムがかっこよかったから　⑥話がよくわかったから

⑦絵が気にいったから　⑧そのほか

オ）絵本の活動が「あまり楽しくなかった」「まったく楽しくなかった」を選んだ人に聞きます。

その理由は何ですか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

①話に興味が持てなかったから　②話が長すぎたから

③話が短すぎたから　④もう知っている話だったから

⑤話がむずかしかったから　⑥話（英語）がわからなかったから

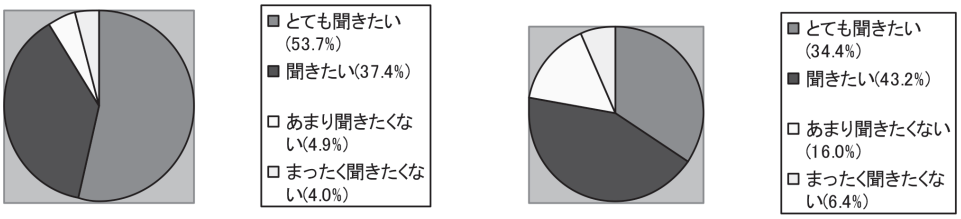
⑦絵があまり気にいらなかったから　⑧そのほか

ご協力ありがとうございました。

かせを楽しんだ成果のようである。反対に4年生については、小さい時から親しんだ絵本を英語で聞いてみるという試みがよいと考えた。また曜日や色、食べ物の名前など盛りだくさんな内容にも発達段階としてついていけると思って選定した。しかしそれが裏目となり、一度内容のわかった絵本をもう一度見るということはあまり新鮮味がなかった児童が多くいた。そこで興味を失った児童やどんなような絵本だろうと期待していた児童も日本語で知っている素材のため飽きてしまい、興味がさほど持続しなかったのではないかと考える。また英語の単語が多くあることで英語が苦手な児童にとっては難しいと思った要因になってしまったのかもしれない。

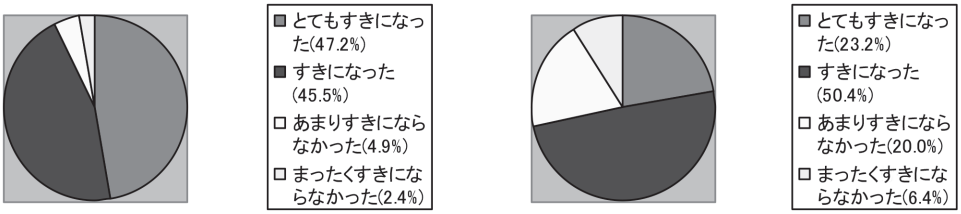
ア）(「英語の絵本の読み聞かせ」をこれからも聞きたいですか。

〈資料7〉　　3年生　　4年生



イ）先生に英語の絵本を読んでもらいました。前より英語の絵本に興味が出ましたか。

〈資料8〉　　3年生　　4年生



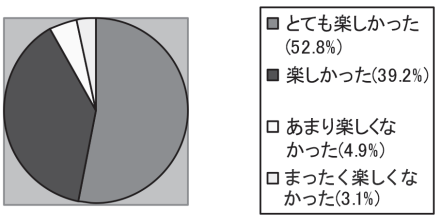
ウ）の項目〈資料9〉「絵本の活動はどうでしたか。」この設問についても〈資料7、8〉同様学年によって差ができた。3年生は外国語を習い始めたばかりということもあり幼い子供向けの絵本であったが児童の発達段階と合致したと思われる。4年生については内容が盛りだくさんだったので、「英語がわからない」「どうせ英語を習っている、得意な子にはわかるのだろう」という不安な気持ちが前面にでた児童が多々いたのかもしれない。

この結果から、絵本を選定するにあたっては、「この絵本ならどのように導入するか、どのように扱うか」を見極める必要があると強く感じた。児童の普段の様子をよく知っている担任の先生が読み聞かせをするならその時の児童の集団力を分析して絵本を選定することができる。その大切さを実感した。今回は数回の実践であったが、日常の授業

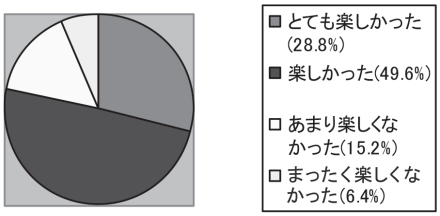
の中で読み聞かせを実践するなら、児童の反応を見極め、興味がわかないものは無理強いすることなく切り上げ、また次の絵本に移るという、ダイナミックなスピード感が必要とされることも分かった。

ウ）絵本の活動はどうでしたか。

〈資料 9〉　3 年生

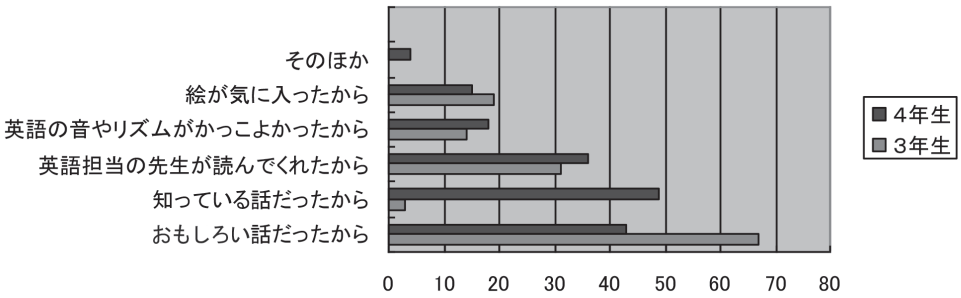


4 年生



エ）の項目〈資料 10〉

絵本の読み聞かせが楽しかった理由



絵本の活動が「とても楽しかった」「楽しかった」と肯定的に答えた児童に、複数回答でその理由を尋ねた結果であり、両学年とも、回答を単純に足したものである。

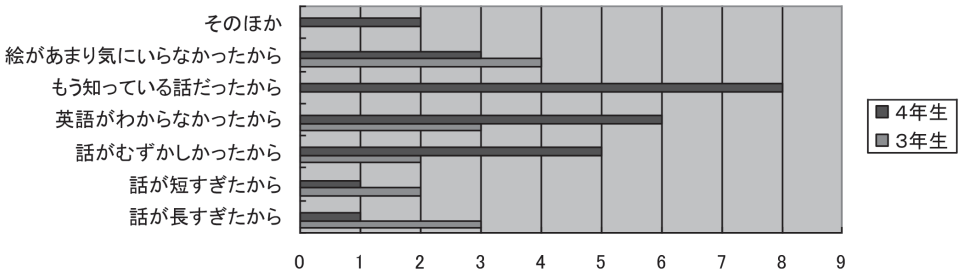
一番多かった理由は「おもしろい話だったから」次に「英語担当の先生が読んでくれたから」3 番目は「知っている話だったから」となった。絵本を楽しいと感じるにはお話が興味深いものであるのは当然である。そのうえで読み手の工夫や上手さが左右することも必至の要因である。当然のことだが絵本の内容がわかりやすく知っていることも大切であることが判明した。その他には以下のような意見があった。

楽しかった・とても楽しかった理由（自由記述）

3年生	4年生
・わかりやすかったから（3人）	・日本語版を読んでいたので分かりやすかった(2人)
・英語がいっぱいあって楽しかったから	・自分の好きな先生が読んでくれたから
・絵がかわいかったから	・読んでくれる時面白く言ってくれたから
・英語が好きなので英語を聞いて楽しかった(2人)	・今日の英語がとても楽しかったから（9人）
・好きな英語の先生が読んでくれたから（2人）	・先生の読み方がとても面白かったから（5人）
・絵と話の雰囲気があっていたから	・先生が工夫して読んでくれたから
・知っている話だったから	・幼稚園で読んでもらったのを思い出したから
・英語を習っているので、言えて楽しかったから	・英語ではじめて聞いて楽しかったから（3人）
・何となくわかって面白かった	・英語の言い方が面白かったから
・いろんな言葉の意味を知れて楽しかったから	・リズムが気持ちよかったから（2人）
・英語の本は楽しいので、もっと他の本も読んでほしいです	・わかりやすく面白かった（2人）
	・英語の勉強になったから（2人）
・絵本で英語の勉強ができたから	・また違う英語の絵本を読んでほしいと思ったから
	・久しぶりに先生の声を聞いて元気が出たから

オ）の項目〈資料 11〉

絵本の読み聞かせが楽しくなかった理由



絵本の活動が「あまり楽しくなかった」「まったく楽しくなかった」と答えた児童に、複数回答でその理由を尋ねた結果であり、これも両学年の回答を単純に足したものである。一番目は「英語がわからなかったから」に2番目に多かったのは「もう知っている話だったから（4年生のみ)、次に多かったのは「話がむずかしかったから」と「絵があまり気に入らなかったから」であった。その他には以下のような意見があった。

あまり楽しくなかった・まったく楽しくなかった理由（自由記述）

3年生	4年生
・ちょっと長すぎて、あんまりわからなかったから	・英語はおぼえるのがむずかしかったから ・英語の意味が分からなかったから ・読む速さがもっと早いほうがいいと思ったから

この結果は〈資料9〉と表裏一体である。児童の興味や関心に合う絵本を選定することの重要さを物語っている。また児童が英語の内容がわからなくて不安を抱いているときには推測できるように読み手が工夫することの大切さを再確認した。また児童が難解でわかりにくいと感じるときはヒントを与え、ジェスチャーや、児童とやり取りする中で、英語のリズムを損なわない範囲で補助する力の大切さを感じた。

（4）研究の成果

近藤教諭の実践を踏まえ、今後につながる研究の成果を記載する。

① 読み聞かせの様々な工夫

(1) 低学年児童は先生の働きかけで絵本を目で追う。そのことを確認したうえで、近藤教諭は文字をなぞるのではなく、常に全体を見られるように工夫されていた。各ページを開く時に児童の様子を瞬時に観察して、日本語を取り入れ、間合いをうまく取り入れ興味が継続するように工夫されていた。

(2) 児童の反応を見ながら、理解度を確認して、音と意味を結び付ける工夫をされていた。

(3) 声のトーンや読み手の表情も大事である。児童は常に絵本を見ながら先生の反応や表情も確認しているとの認識から、時にはオーバーアクションであったり、静かに語りかけたりされていた。

(4) お話を読む先生が楽しいと思って、絵本を選択し、読む方法もご自分が楽しみながら進めておられた。「楽しい」とか「驚き」とか先生の感情が児童に伝わるように読み進めておられた。絵本の読み聞かせの真ん中には、読み手の先生の思いとそれを受け取る児童の心の合致が大切であると強く感じた。

(5) 4年生の絵本では、詩のようなリズムがあり韻を踏んでいる箇所が多くある。心地の良い英文のリズムを大切にしながら、ダイナミックに読み進めておられた。重要な部分をうまく押さえてリズムが崩れないようにシンプルに読むまれたり、多くの技術を使って読み進められていた。

(6) 絵本の読み聞かせはくり返し読むことで「聞いてわかる（インプット）」の体験を大切に丁寧に進める必要がある。そのうえで「一緒に言ってみたい（アウトプット）」がある。焦らずに丁寧に繰り返しながら自然と真似をしたくなるような雰囲気を作っておられた。

聞いて心地よいリズムなら、真似してみたいと思う児童が多々いるはずであった。

② 読み聞かせをする際の留意点

これらの実践を通して読み聞かせの課題が浮かび上がってきた。

(1) 日本語と英語の使用量のバランス

読み聞かせをする先生にとって、日本語と英語の使用量のバランスをとることは、絵本の内容を理解させるうえでの大切な要素の一つとなる。あまり日本語の説明には頼らない。反対に児童の日本語でのつぶやきを英語で返したり、英語で発問しようと思っていてもうまく英語で表現できない時は日本語を交えることもありうる。

読み聞かせの前に児童の分かりづらいところをあらかじめ予想し、やさしい表現に変えたり､とっさの受け答えがスムーズにできるように十分に音読練習を繰り返す必要がある。

(2) 児童の英語力と絵本の内容のギャップ

英語入門期の3年生に選んだ絵本は比較的わかりやすく日常生活に使う表現が多かったこともあり、比較的スムーズに教師の読みに繰り返しという対応でうまく児童を引っ張っていけた。内容が易しすぎないかとの懸念もあったが、児童の発達段階と読み聞かせの内容が日常生活にうまくつながった。4年生は小さいころに読んだ絵本で内容が理解できていると予想して、絵本を選んだ。それが裏目に出て興味が薄くなった児童がいたことも事実である。多くの英単語を繰り返して覚えてもらおうと考えた。おおむね成功したが、うまく児童にその意思が伝わらなかった部分もあった。絵本の選定は児童の実態と兼ね合わせ、慎重かつ挑戦的に新しい絵本を選ぶ必要性を実感した。今後教科となるにつれ児童がより英語に親しむことになれば、絵本を読み聞かせる機会も増え、この問題は解決されていくかもしれない。

(3) 読み聞かせの際の絵本の提示の仕方

学級30人を超える児童を前に比較的小さい絵本を使用する際には、できるだけ読み手の近くに児童を集めて座らせるなど児童の配置に気を付ける必要がある。現在のコロナ下での密集は避けなければいけないなら、大型テレビに映すなど新しい絵本提示についても研究する必要がある。

(4) 聞く態度についての考え方

近藤教諭によると、児童はALTの先生の読み聞かせの時は、比較的発言もなく、聞き入ることが多いとのことだ。担任の先生や日頃親しんでいる英語担当の先生の時には思い思いにつぶやきがあるとのことだ。この特権を生かし、担任や英語担当の教師が読み聞かせるときは、つぶやきをうまく拾い、英語に苦手意識のある児童も積極的に読み聞かせに参加できるように仕掛ける工夫がいるだろう。

（５）絵本リストの作成

①絵本の選定についての考え

(1) 先生自身の好みを前面に出して選べばよい。良く調べて様々な絵本を選びたい。児童の視野を広げる手段として様々な分野の絵本を読んでみるのもよい。

(2) 英文がわかりやすく、少ない情報から理解できるように、絵が魅力的であったり、仕掛けが面白かったりする本を選ぶ必要がある。

②読み聞かせで使用する絵本のリスト（案）（**近藤教諭との相談の下、筆者作成**）

題　名	著者名	絵本の内容
Don't Push the Button!	Bill Cotter	「絶対押しちゃダメ」といわれれば言われるほど押したくなるボタン。読み手も一緒に遊べる絵本。
The Very Hungry Caterpillar	Eric Carle	シンプルな仕掛けと色鮮やかな絵本の中に、曜日や果物の名前など多くの知識がつまった絵本。40 年来愛し続けられるベストセラー。
The Very Busy Spider	Eric Carle	*The Very Hungry Caterpillar* の作者によるクモを主人公にした人気絵本。クモの糸部分が凸凹になっていて手で触って感触を楽しめる「しかけ絵本」。
『どこへ行くの？』*To see my friend!*	いわむらかずお Eric Carle 共著	世界的絵本作家による合作絵本。日本語・英語、左右両方の表紙から始まり、それぞれ対訳関係になって、二つが真ん中で終わる、ユニークな内容の絵本。
In, Over and On the Farm	Ethan Long	豚、やぎ、牛、にわとりが農場を舞台に大暴れ！前置詞の理解をキュートなイラストとコミカルな登場動物が視覚的に助ける愉快な絵本。
Excuse me !	Karen Katz	カラフルでかわいらしいイラストを見ながら、さりげなく挨拶やマナーを覚えられる絵本。言葉のくり返しがリズムを作る絵本。
Lemons Are Not Red	Laura Vaccaro Seeger	「レモンは赤くないよ。黄色だよ」切り抜きの仕掛けで色と形をマッチさせていける絵本。シンプルだがよく工夫されて作られている。否定文を学べる絵本。
Ketchup on Your Cornflakes?	Nick Sharratt	1 つの絵が上段と下段に分かれていてページをめくりながら絵合わせができる絵本。上段はすべて Do you like ～？という疑問文になっており、英文がわからなくても児童は "Yes" か "No" を選べるので組み合わせのきく面白い絵本である。

A Cheese and Tomato Spider	Nick Sharratt	*Ketchup on Your Cornflakes?* と同じ作者の楽しい絵本。1つの絵が上段と下段に分かれていてページをめくりながら絵合わせができる表現豊かな絵本。
Shark in the Park	Nick Sharratt	公園にいるサメの正体は？穴をのぞいて正体をあてるクイズのような面白い「しかけ絵本」。
You Choose	Nick Sharratt	見開きページに書かれた質問はたった1つだけ。あとはカラフルな色彩で所狭しと選択肢が描かれた英語を話すきっかけができる絵本。
What's in the Witch's Kitchen?	Nick Sharratt	各ページ左右に開けるようになっているしかけ絵本。運命を分ける選択がスリル満点で楽しい「しかけ絵本」。 ハロウィーンの時の読み聞かせに最適。
Don't Forget the Bacon!	Pat Hutchins	お買い物を頼まれた坊やが忘れないように呟きながら買い物に行くお話。数字のリズムにはまりながら読み聞かせればリズムにはまる。
The Jumble Sale	Roderick Hunt, Alex Brychta	Oxford Reading Tree ステージの中の一冊。多聴、多読のための絵本。

3 研究のまとめ

実践の成果の一つ目は「読み聞かせの様々な手法」と「読み聞かせをする際の留意点」を明らかにできた。もう一つは実践を通して見えたものを「英語の絵本の活用リスト」にまとめることができた。それぞれについて以下に詳しく述べる。

（1）「読み聞かせの様々な手法」

① 導入で表紙の絵を使って、児童とその日のキーワードなどについてやり取りをする。
（ How many …s do you see? What is this? など ）

② 絵をさしながら登場人物の紹介、掲載されているものの名前などに触れておく。

③ ページのめくり方を工夫する。ゆっくりめくる、一部を先に見せるなど様々なめくり方で児童の興味をそそるようにする。

④ ジェスチャーや表情、声色、難しい言葉はわかる言葉に言い換えるなど工夫する。児童の理解度により同じ本でも読み方を変える。

⑤ 途中で、次を予測させる質問を入れる。絵から答えを見つけやすいものは英語で発問して答えを児童とともに考える。

⑥児童の日本語でのつぶやきを大切にし、英語で話さないといけないというプレッシャーを与えない。これは ALT の先生の読み聞かせの時にはできない方法として、担任の英語の先生が教える特権と考えればよい。

⑦児童全員に目を配り、常に児童の疑問やつぶやきを大切に、丁寧に児童の反応を拾いながら「読み聞かせ」を進める。

（２）読み聞かせの留意点

①事前の児童の経験値や教室の環境をチェックする。

「英語の絵本」をあらかじめ日本語版で内容を把握している方が効果的なのかを検討する必要がある。また絵本の大きさや材質、教室の照明具合など、より良い環境の元読み聞かせができるように事前に環境をチェックする必要がある。

②児童の座らせ方や教材提示装置の使用を考える。

教室全体の児童によく見えるように、人数の多い学級では中央に詰めて座らせる。書画カメラで絵本を写したりスキャナーで取り込んでスライドショーの形で提示したりできる。ただし、著作権法違反とならないように気を付けることが大切である。

（３）「絵本の活用リスト」の作成

「どんな絵本を選べばよいかわからない」という先生たちの声に答えられるように作成した。絵本の選択については、近藤教諭の経験からの選択を参考に、絵本一冊一冊についてこれはどのような話かどのような読み方をするのか、どの学年に適しているか、など検討した結果を掲載した。英語の苦手な担任の先生であっても、繰り返しの練習次第で児童の興味を起こさせる機動力になりうる教材を選んだ。朝の帯時間に国語学習の一環で「日本語の絵本の読み聞かせ」をしているのであれば、時々は英語の絵本で読み聞かせをやってみるのもよい方法だと思われる。

今回の 3、4 年生の実践を基に、広く小学校英語の実践として広めるための「英語の絵本活用リスト」にも着手していきたい。また 5、6 年生での英語科の学習を支え発展させるために適する絵本の選定など、より厚みを持たせた研究を続けていきたい。そしてより小学校のニーズに合う「絵本の選定」や「読み聞かせの手法」について研究を継続していきたい。

最後に、コロナの影響で始業式が 6 月にずれ込んだにもかかわらず、快く読み聞かせの実践に協力してくださった西宮市立津門小学校近藤昭人教諭にこの場を借りて心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

≪注≫

(1) 西宮市立津門小学校　近藤昭人教諭

長年西宮市立小学校の教諭を務められ、小学校英語教育の実践者の一人として活躍されている。今回参考にさせていただいた研究レポートは以下のようなものである。

「英語との出会い」(小教研　外国語・英語活動部会　資料)

「第5学年　英語活動指導案　絵本の読み聞かせをしよう」

「第4学年　英語活動指導案　外国語とたわむれよう」など

≪引用文献≫

・文部科学省（2016年)「中学年を対象にした、絵本活用に関する基本的な考え方」

≪参考文献≫

・木原美樹子（2018年)「小学校英語教育における絵本の活用について ―絵本の選び方を中心に―」
『中村学園短期大学部研究紀要（50号)』
・田中真紀子（2017年)『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』(研究社)
・永井淳子（2017年)「教材としての英語絵本の目的と条件」
『日本児童英語教育学会　第38回全国大会発表資料集』
・福井県教育研究所調査研究部英語ユニット（2017年)「小学校における英語絵本の読み聞かせの研究 ―担任が無理なく取り組める手法を探る―」
『福井県教育研究所研究紀要（122号)』
・松本由美（2017年)「小学校中学年に効果的な英語絵本選定基準の策定」
『日本児童英語教育学会　第38回全国大会発表資料集』
・Bill Cotter（2013年) *Don't Push the Button!* USA Sourcebooks Jabberwocky
・Eric Carle（1994年) *The Very Hungry Caterpillar*　USA Philomel Books; Brdbk版
・Eric Carle（2006年) *The Very Busy Spider*　USA World of Eric Carle　Ltf版
・Eric Carle いわむらかずお共著（2001年)『どこへ行くの？ *To see my friend!*』童心社
・Ethan Long（2015年) In, Over and On the Farm G.P. Putnam's Sons Books for Young Readers; Ltf版
・Karen Katz（2002年) *Excuse me !*　USA Grossetb & Dunlap
・Laura Vaccaro Seeger（2006年) *Lemons Are Not Red*　USA Square Fish
・Nick Sharratt（2006年) *Ketchup on Your Cornflakes?*　USA Scholastic
・Nick Sharratt（1998年) *A Cheese and Tomato Spider* USA Barrons Juveniles Spi版
・Nick Sharratt（2007年) *Shark in the Park*　USA Corgi Childrens
・Nick Sharratt, Pippa Goodhart（2018年) *You Choose*　UK Puffin
・Nick Sharratt（2018年) *What's in the Witch's Kitchen?* USA Walker Boks Ltd
・Pat Hutchins（1989年) *Don't Forget the Bacon!* USA Greenwillow Books; Reissue版
・Roderick Hunt, Alex Brychta（2014年) *The Jumble Sale* USA Oxford University Press